

エトキ



∞

「ああ、すっかりご無沙汰して……

申し訳ありませんですわ！」

「どこに話しかけて……ほうっ!?!」



はー

は…

ビュ

ビュ



「は……んっ！この匂い、この味……！」

貴方様の性欲のはけ口だった

爛れた日々を思い出しますわ……」

「お、おう……」

ちゅ

ちゅ

れろ

とろとろ

ちゅちゅ

とろ



「ん……、ほう、はんれふ……！」

「あ、ちよ……っ!? 啜えながら……、
話すのは……っ！」









「んッ!んぐ……、フッ……!」

「……う、おっ……!?!全部、吸われ……っ」

ちゅる
ちゅ

ちゅる
ちゅ

ん
ん

ちゅ
ちゅ

ん
ん

はっ

ちゅる
ちゅ

ちゅ
ちゅ

「は、あ……っ！まだまだお元気で……

流石ですわ」

「あ……ちよつと——」



「あ……はい、って……、んあっ!!
こうしていると、貴方様に初めて
抱かれた日を思い出しますわ……」



「あ、あああッ!?.....深、あああっ!!」

「.....まあ、都合のいい穴だったのは、事実だけど、な!」



「はあ……あ！その……ようなっ!!

あ、ああ……っ！はあっ……!!」

「ほら、お望み通り、出してやるよ!!」



「うあ、溢れ……、ああああ……っ!!!」



「……ふ、……あああっ!?
ま、だ……っ、出で……ッ!?!」



「ちよっ!?ちよつと、休みましょう……!」

「そう?じゃあ俺が動くから休んでていいぞ」

「え、えっ……!?!」





「あ、の……っ!?わた、くし……、
そっちで、した事は……」
「そう、だっけ——」

あ

は

あ
あ

ぬ
ちゃ

ぐ
ぐ

「まって、あ……っ!? ツ~~~~!?」



「流石にこっちは、きついな」

「なっ!?それ……は、聞き捨て……」

「なりま、……はっ!?あああっ!!」

「ん、いいぞ……!たっぷり出そうだ」



「まっ……て、そと、にいいいいッ!!？」



あははは

あははは

ちゅ

あははは



「あ、ああ……ッ!?あ、はあああああっ!」

「……く、う……っ!」

「ひ……!?おな……か、苦し……あ!」

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



「は……っ、あっ!?そんな、また……?」

「俺はまだまだいけるぞ」

「私は、もう……お腹いっぱい、
……ああっ!!?」

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ



「……あっ、はああああっ!?!」

「っ!……ほらちゃんと絞めて。それとも、ケツ穴のほうがよかった?」

「う、く……ッ!それ、は……はあっ!?!」

は
あ
あ
あ

は
あ
あ
あ

く
く

は
あ
あ
あ

は
あ
あ
あ

く
く
く

は
あ
あ
あ

「あ……、で、でっ……………!!!」





「あ、はっ……、お変わらない、ですわ……」

「そっちも相変わらずだな」

「……私を、この様にしたのは……、
貴方様ですのに……」

「ふむ、じゃあ責任取らないとな」

「え、嘘……また、あ——」

あ、はっ……

あ、はっ……

あ、はっ……

あ、はっ……

あ、はっ……

あ、はっ……

あ、はっ……

あ、はっ……

「い……、ひッ!イ、く……っ!!
おひり、で……あ!?は、ああああッ!!」
「いいぞ、こっち……も!」





「……あ、……はっ!!
で……ちやあ……っ!」



END

「いやー悪いね。Ou脱いでもらって。
露出が増えた、というかHでいいと思うよ」
「え、そう……かな？前と、
あまり変わらないと思うけど……」



「んっ……！あ……、
ここ、で……
する、の……？」



「もちろんそのつもりだけど？」

「は、……う……あっ!?だ、ゆ……っ！」



「誰かに、……見られ、たら……っ、あ……!?!」

「そう?じゃあ、やめる?」

「……んッ!それ、は……、あぁっ!」



「は……、……あつ！も、もう……

だめ、だよ……」

「ん、……じゃあ」



「これ、鎮めてくれたら戻ってもいいよ」
「……ん、約束だから、ね……」





「ふ..... んん!.....ぶはっ!」

「そうそう、裏スジもな」

ちゅ
ちゅっ

ちゅ

ちゅ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ



「ん.....!?ぶ.....うっ.....!」



「……ん……、……ふ」
「飲み込んでいいんだぞ」
「ん……、んぐ……ぷはっ！」
「あ、綺麗にしてね」

ぽっ

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん



「は……あ、こ……れで、……いい？」
「あ、ああ。んじや約束だし戻るか——」

「おい見るサラ、先代達がとても破廉恥だぞ。
ほらあれ、あんなの口に入れて大丈夫なのか？
うわ、あ……なあ、見てみるって——」
「知らないわよ！バカ!!」
「バカとはなんだバカ！あ、行ってしまったぞ」
「じゃあもういいでしょ！帰るわよ!!!」





「さて、さっきの続きといこうか」

「……う、うん……」



「すんなり、入っていく、な」
「だって……、途中だった、から……っ！」



「はっ……!あ、は……っ、あ!」

「……っ、そろそろ出る、ぞ!」



「あ、つ……、あああああっ!」



「っふ、……う……」

「……っは！あ……ふれ、で……」

「ちょっと、体位変えてくれないか？」

「ん……っ、こ……う？」



「ああ、尻穴までよく見えるよ」

「え……？まさか、それ……っ!？」

「まっ……、あ!?おし……り、……いつ!?!」



「まだまだ、……もう、一本!」

「……は、うあ……!?……や、はあ……っ!?!」



「ひ……い、……た!?たた……いちゃ、だめ……あつ！」

「あ、すまん。つい……っ！」



「でも、……こういうのも、好きだろ！」

「そんな……、あ……はあつ!!」

「ごめ……な、さ……っ!も……、わた、
……い、あ……!い、く……うッ!」



「いいぞ、こっちも……、お!」

「あ……、ひああ……、ああっ!?!」

「も……っ、う……、やりすぎ……、だよ……」

「あ、ああ……。でもよかったですか？」



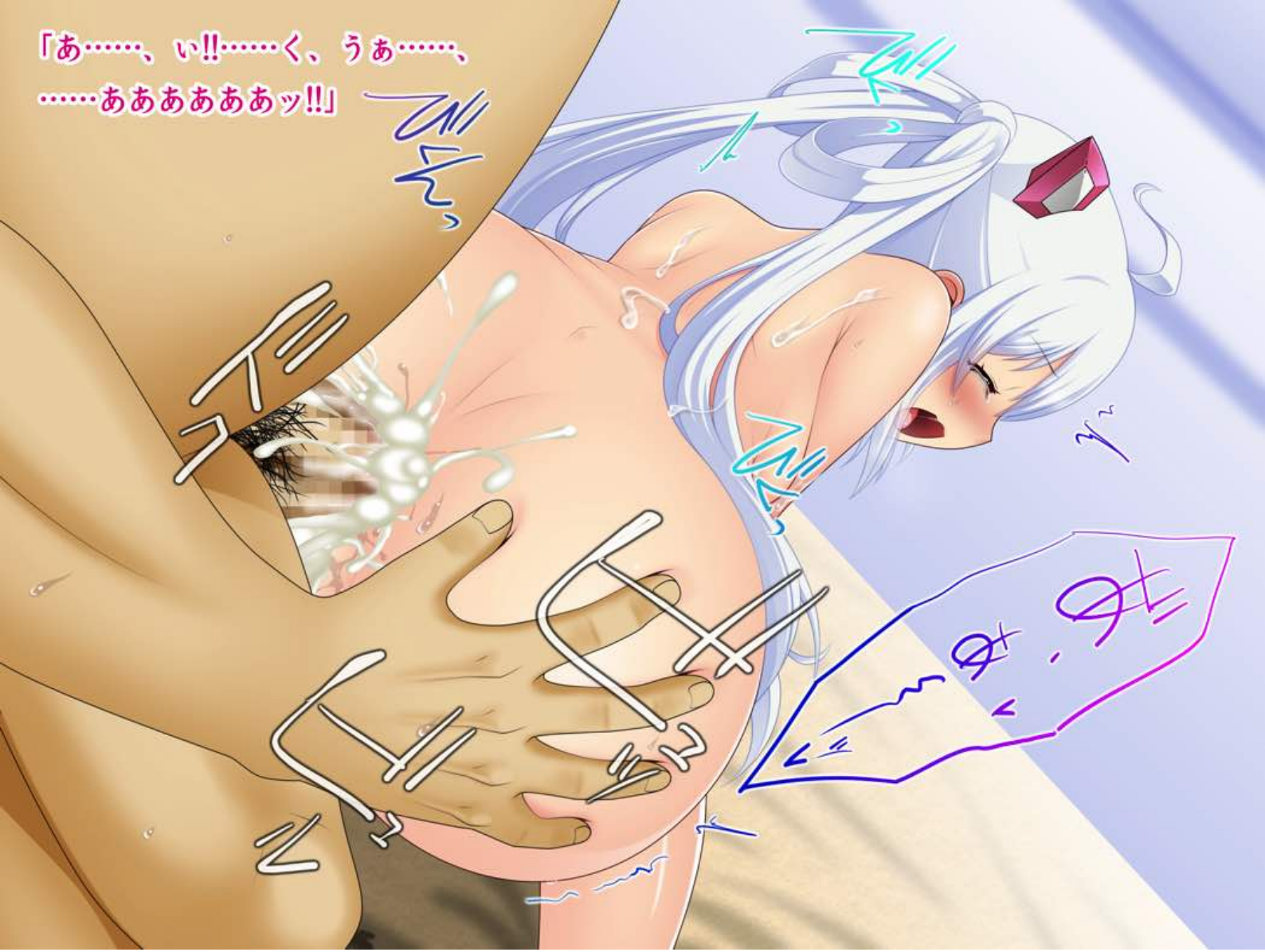
「それ……、は……、んッ！
だからって、おしり……なんて——」

「だったら、素直になるまで……穿ってやるよ！」

「……あっ、あああ!!……ゆる、し……、
……あ!だ、め……え!おし、り……
きもちいい、からあっ！」



「あ……、い!!……く、うあ……、
……あああああッ!!」



「……あ、や……あ……、
……見、ないで……え」





「は……っ、もう……、だめだって、言ってるのに」



「ほら、しばらくしてなかったし……こっちならいいだろ？」

「……あつ、ん……！だから、お尻でもHしてたの……かな」



「はっ……！もう、強引すぎ、るよ……っ！」

「……ん、大丈夫、ご無沙汰だから……すぐにつ！」

「あ……、は……あ！お尻に、出で……えっ!!」



「……は、う……っ!も、っと……優しく、……あ」

「ふ、む……。よし、優しくすればいいんだな!」

「……え、え……?今じゃ、な……ああっ——」

END

「それでセックスがしたい、と」

「うむ！サラよりオトナになるのだ！

私の方がお姉さんだからな！」

「お、おう……」



「ま、それでいいなら構わんが……」

「ああ……っ!?な……、舐める……のかっ！」



「うむ、色々準備するもんなんだよ」

「そ、……かつ！……あ、は……あつ！」





「もう、いいかな」

「……はっ……、う……っ!？」

「そんな物、本当に入るのか……?」

は、

お、お、

ク、ク、ク、

「あ……かはっ!?……あ、ああ……ッ!?

いた、あああつ……!!」

「大人になる為だ、我慢だ」

はああ

あ、あ

ちゅっ

ちゅっ



「……う、あつ……は、ああ……ッ!？」

「しかし辛そうだな。これで、どうだ？」

「あ、ひ……あ！」



「っ!出る、ぞっ!」

「何、あ……あぁっ!?!」



「は、……あ！これ、精液……」

「っ……く！まだ出、……る」



あ
あ
あ

あ
あ
あ

ん
ん
ん

「……うあ、はっ……、これで、私も……」



「……ほんとに、これ、舐めなきゃいけないのか？」

「ああ。ちんこを綺麗にするまでがセックスなんだぞ」

「確かに、先代もやってたような……うう」



「う……、苦……あ、んんっ！」

「ほら、ちゃんと舌で舐めとって」



「いいぞ、舌を這わせて……奥までっ！」

「……んぐ！ふっ、んんん……っ！」



「く、出す……ぞっ！」

「ッ……!?んぐ……うっ!!!?」



「よーし、……吐き出すなよー」

「う……っ、む……あ……、ま、ずい……」



「もう飲み込んでいいぞ」

「……んっ、やっぱり……、まずいし……にがしいし、

喉につつかえる、ぞ……」

「そのうち慣れるさ——」



「で、話を聞いて、お前も……って事か？」

「何よ！私だけ仲間はずれみたいで嫌じゃない！」

「ああ……はいはい」

か
あ
あ
っ

ぐ
ぐ
っ



「やれやれ、後悔するなよ」

「そんな事……、って!?なに、それ……!?!」

ん、

は、

は、

ん、

ん、



「何って……、チンコでもおチンポでも好きに呼べよ」
「呼び名じゃ、なくて……！そんなの、入るわけ……！」



「今更何を……大丈夫、ほら力抜けって」

「あ、く……う!?!」



「は……あ、……うあ……！……はっ!!!」

「よし、いいぞ……」

「あ、……はうっ！もう少し、ゆっくり……い！」



「……う、く……こんなの、何がいいのよ……」

「ふむ、じゃあよくなるまでがんばろう、な！」

「え、ちょっと……ま、あああっ!?!」

は

は

あ

ん

ん

ん

ん

ん



「よしよし、ちゃんと着てきたな」

「う……、なんでこんな格好……」

「どっちがよかったか、なんで事で喧嘩するから……」

同時に比べてやろうと」

「もちろん、私の方がいい具合だよな！」

「よくそんな事、」

恥ずかしげもなく聞けるわね……」

だいたい違いがある訳が……」



「ま、なんやかんや理由をつけて、セックスしたいだけだろ？」

「ふふ、そうかもな。私は準備万端だぞ」

「は、……あたし、は別に……」



「ふむ、じゃあ、正直なこっちの穴から——」

「あ、ああっ！はいつて……！」

「う……く、ゆび、……あ！」



「は、あぁっ!?……おし、り、……いつ!」

「いいぞ、出……る!」

「あ……、あたしも、い……あ!」



「……は、こんな……に！やはりこの勝負、私の勝ちだな……！」

「っ……、いれ、て……」

「ん？」

「次は、あたしの番でしょ……！」

「指じゃ、なくて……！」



「はいはい。そらよ！」

「あ……は、ああ……っ！太、お……っ！」

「……は、指……っ！そ、こ……あはっ！」



「こら、手を……止める、な……！」

「……あ、んああ……！お願い、中、に……っ！」

「ああ、もう……出す、ぞ！」

「あ……っ、はあああっ……！」



「つく、まだ……出、……！」

「あ……あ、勿体無いっ……！」

「は、……あ……っ！」



「で、どっちの勝ちなのだ？私か？」

「なん……で、よっ……！」

「罅が明かないな、よし」



「じゃじゃーん」

「なん……だ、それはっ……」

「ルールは簡単、これをより多く飲み込んだ方の勝ちとします」

「は、あ……!?!」

「ケツ穴で」

ゴクッ
ゴクッ

は、あ……



「あ……、もっ……無理……いいッ！」

「こん、な……、あ、……壊れ、うあッ！」

「なんだ、二人とも同じ数じゃ決着付かないぞ。

仕方ない、引き抜いてやり直すか」

「……ま、て……っ!?!」

「そん、やめ……ああああッ!?!」

あは

あ

あ

あ

あ

あ



「は……!あつ……、いい、ぞ……っ!
もっと……!」



ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

「……わかった、いく、ぞ！」

「や……あつ……、うああああ……ッ!!!」



「はっ……う！」

「……ん……、外に、出すな……もったいない」



「やっぱり、こん、な……のっ、
あ……、だめ……え！」



「だめ、なの、に……いっ、く……ああああッ！」

「っく、こっちも……！」

もっくん

はあ

びん

びん

びん

びん



「う……っ、あ……、たし……また……」

「今はみんな尻穴ばかりだしな」

「少しは、自重……しなさいよ」

「ああ、じゃ、最後にもう一回——」



END

「ん……っ、もう……！こんなに、
女の子を、食い散らかして……！」



「……んっ！こん、な……、事まで……！
うらやま……じゃなくて、酷い——」
「何が酷いって？」
「……あ、あー」



「やれやれ、プライバシーの侵害だぞ」

「う、すみません……って、何を——」

「お返しにオナニー見てやるから、続けなさい」



「そん、な……っ、は、あ……っ！」

「ふむ……、クリオナ派なのか」

「う、……あ！」



「はっ……！ゆび、入れるのは……ちよつと、っ！」

「ふーん、なるほどー」

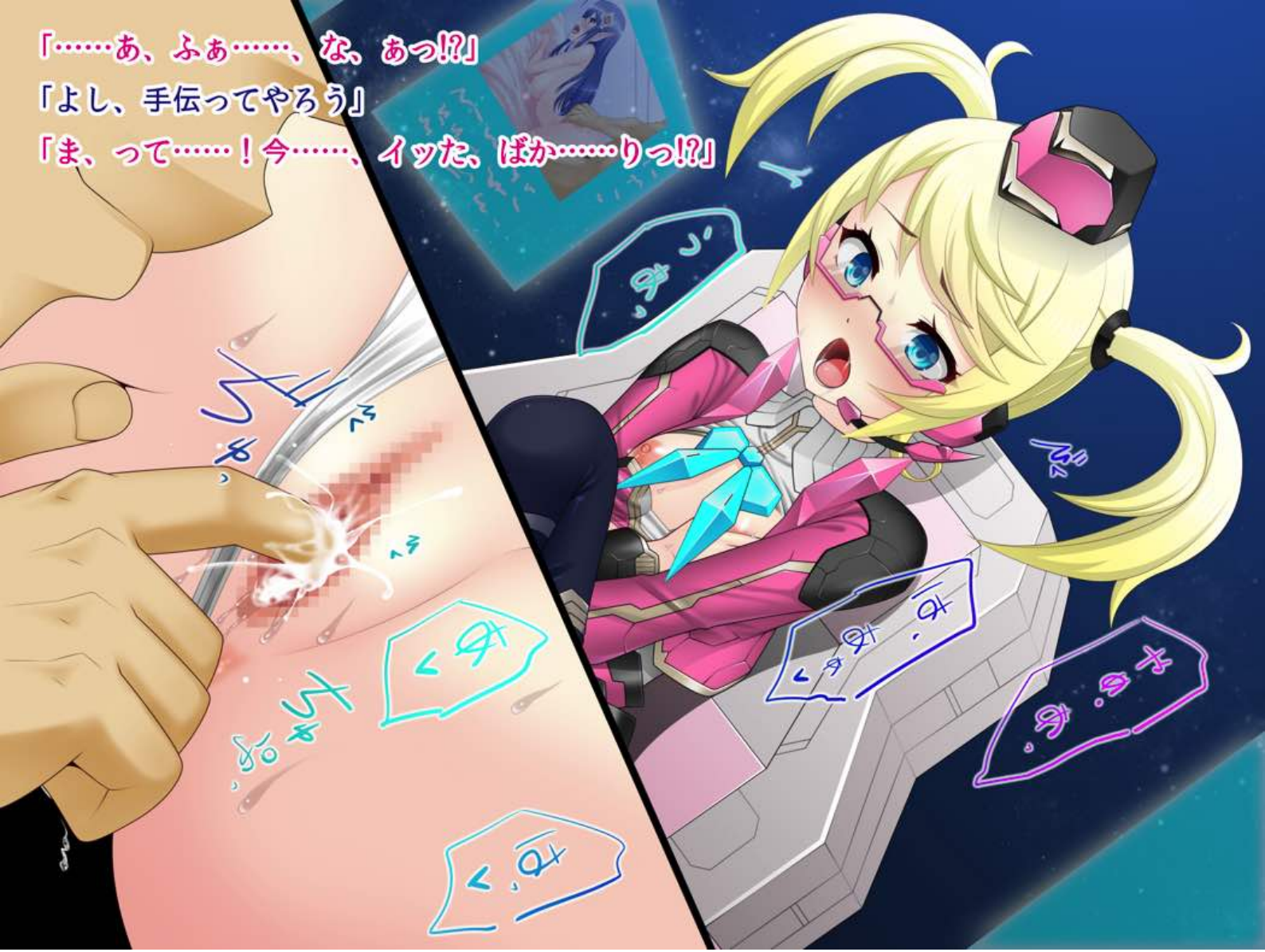
「息、が……！ああ……いく、……はうつ！」



「……あ、ふあ……、な、あつ!?!」

「よし、手伝ってやろう」

「ま、って……!今……、イッた、ばか……りっ!?!」



「うあ……は！だ、め……、あああっ！」

「ん、ここがいいのか？」

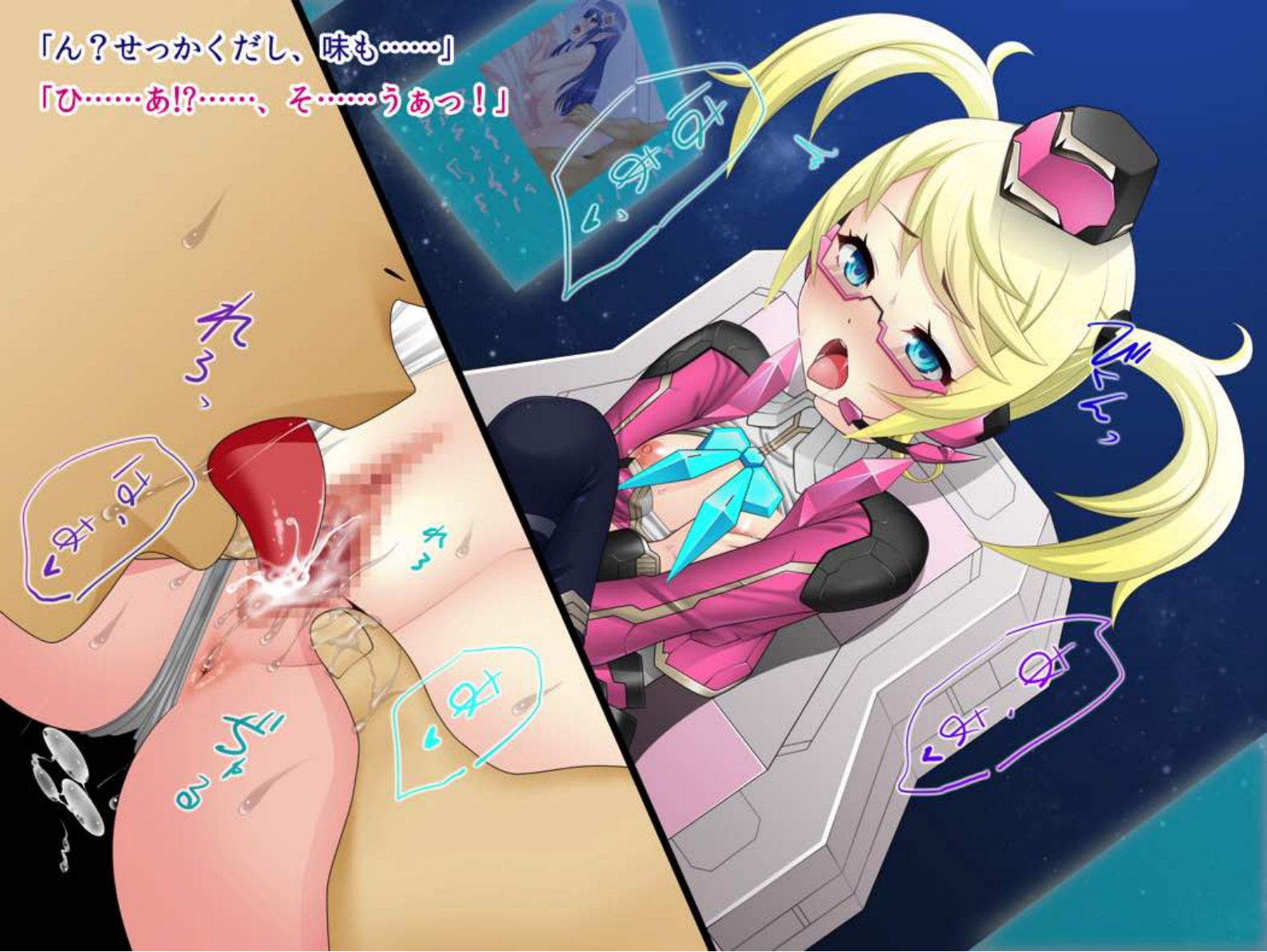
「ひ、いっ……!?……そこ、おっ!?!」



「は……あ、なんで……、やめ……あ！」

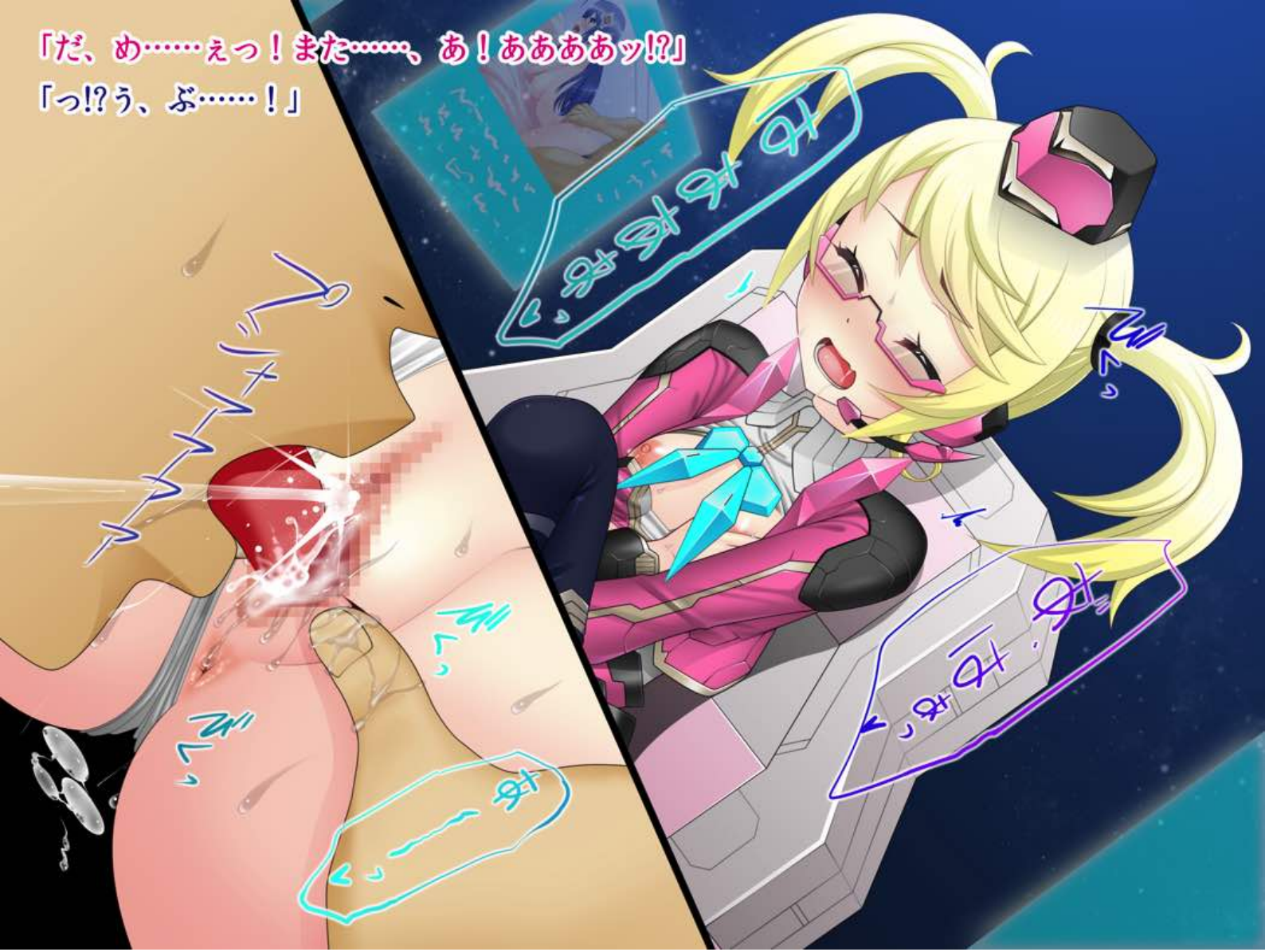


「ん?せっかくだし、味も○○○○○」
「ひ……あ!?……、そ……うあつ!」



「だ、め……えっ！また……、あ！あああッ!?!」

「っ!?!う、ぶ……!」



「あ……はっ！……ふ、 ああ……」

「派手に噴いたなあ。これだけ濡れてればいいだろ」

「え、ひや……あっ!?!」





「あ、の……っ！まだ、心の準備が……」

「ダメダメ。これはお仕置きでもあるからな！」

ズッ

ズッ

は、
……

ズッ

あ、



「それは、でも……ここじゃ、誰か来るかも……！」

「ふむ……、見せてあげたらいいんじゃないか？」

ズッ
ズッ

あ

あ

ああ

「そんな、あ……あああッ!?!」

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ



アッ
アッ
アッ

おは
おは
おは

お

お
は
アッ
アッ
アッ



「は、あ……いたッ!?あ……はっ!」

「おっと、痛いのか……?なら少しは、加減するか!」



「うあ……あつ!も、……う、だめで、すっ!」

「ん……っ!こっちも……出る!」

「あ、は……ッ!あ~~~~!」



「……こ、れで……、私も……お母さん、ですね」

「え……、子ども出来るの……？」

「さあ、どうでしょう……」





「あ……は、今日は、お尻……、ですか……っ！」

ぐち

ぐ

あ

た

は

「……ひゃ、あ……っ！はい、……って！」



「しま、って……！よし、出す……ぞ！」

「あ……、うあ……っ！はああああッ!!」



「……は、あ……っ！みなさんが、こんな変態的な行為をしている気持ちが、少し理解できました……」

「ほう……言ってくれるじゃないか」

「あ、……冗談ですよ？あ……あっ!?!」



END